

各国の高齢化の状況と高齢社会対策

—高齢社会対策に関する海外動向把握調査報告書—

ア メ リ カ イ ギ リ ス ド イ ツ
スウェーデン 中 国 韓 国

平成12年3月

総務庁長官官房高齢社会対策室

第5章 高齢者の社会参加—ケース・スタディー／グレンドラ市の場合

このレポートでは米国カリフォルニア州ロサンゼルス郡にあるグレンドラ市 (City of Glendora) における高齢者の社会活動について報告する。まず高齢者の社会活動拠点となるシニア・センターについて述べ、続いてその他の社会支援プログラムを紹介する。同時にそれらのプログラムが市・郡・州・連邦等の各政府機関および非営利団体にどのように支えられているかをみえる。

1 背景

グレンドラ市は、ロサンゼルス郡のダウンタウンから北東約 43 キロメートルのロサンゼルス郡西部、サン・ガブリエル山脈のふもとに位置する。市の面積は約 50.5 平方キロメートルであり、1997 年の人口推計では、男性 25,268 名 (48.7%)、女性 26,584 名 (51.3%)、計 51,852 名となっている。人種別にみると、白人が約 69.9%、黒人が約 0.9%、ヒスパニック系が約 21.4%、アジア系が約 7.2%、先住民族が約 0.5%となっている。

同推計によると、65 歳以上人口は 6,376 名で全人口の 12.3%を占めている。この年齢層では男性が 42.6%、女性が 57.4%となっている。従属人口指数は 45.4%、老年化指数は 64.9%である。

1 世帯当たりの平均所得金額はアメリカ全体の平均より高く、46,116 ドル、また国勢調査局の基準による貧困層は全世帯の 3.7%、全人口の 5.0%、65 歳以上の高齢者については 6.7%となっている。教育水準は高校卒が 87.7%、大学卒が 22.2%である (1990 年の国勢調査による)。

2 カリフォルニア・ヘルシー・シティー・プロジェクト

グレンドラ市はカリフォルニア州公衆衛生局によって、1996 年にヘルシー・シティーに選ばれた。これは 1988 年に開始されたカリフォルニア州における市レベルの健康増進プロジェクトで、教育レベル、生活状況、雇用状況をみながらその市の環境、経済状況、社会状況によって個人とコミュニティへの支援サービスを改善・向上することを目的とする。このプロジェクトでは、住民の健康づくりに関わる行政担当者、公衆衛生専門家、コミュニティ・リーダーに個人とコミュニティへの支援サービスの必要性を認識させることによって広い意味での「健康」の概念を定着させ、健康増進のための目標達成を目指している。このプロジェクトは連邦政府によるブロック・グラント、カリフォルニア州健康福祉局、加えて五つの公的、私的機関の助成によってまかなわれている。

カリフォルニア・ヘルシー・シティー・プロジェクトへ参加した場合の活動期間は通常 1 年間であるが、グレンドラ市は 1996 年から現在に至るまでこのプロジェクトに連続して参加している。現在ではカリフォルニア州の 50 余りの市がこのプロジェクトに参加しており、各々の市はプロジェクトを通じて公的・私的団体およびボランティア団体などと住民の健康問題に対応するためのパートナーシップを結ぶ機会を得る。

3 自治体による支援

グレンドラ市の財政の約 12%は社会活動支援に充てられる。これには人件費、事務経費、特別なイベントのための予算が含まれる。グレンドラ市コミュニティ・サービス部では、住民の (1) 尊厳と自尊心、(2) 自立、(3) 社会的交流、(4) 加齢に関するマイナス・イメージの払拭、を促進するプログラムを市民へ提供している。これらのプログラムは高齢者に対し、尊厳と自尊心を保ちながら自立を促せるよう工夫されている。

コミュニティ・サービス部にある健康福祉課は、高齢者の生活の質を最大限に生かし、かつ効率化を図るために 5 年前にシニア・センターに事務所の一部を移した。また、コミュニティ・サービス部には、健康福祉課以外にもレクリエーション課、公園管理課、カウンセリング課、交通管理課があり、各課の職員が社会支援、レクリエーション、文化的プログラムに協力することによって、高齢者の社会活動を広範囲で支援している。これらのサービスには、各種情報提供と紹介、教育・レジャー活動プログラム、旅行、イベント、映画等を通じた社会活動、ランチ・プログラム、法律相談、公証人サービス、税に関する相談等が含まれる。

4 高齢者の社会活動

4-1 シニア・センターを通じた活動

シニア・センターはその地域に住む高齢者が経験、技能、興味、ニーズ、自立、社会への参加願望に基づいて活動を行う中心となる場である。ロサンゼルス郡では、主として地域エイジング局が高齢者のために多くのサービスを提供しており、その一環としてシニア・センターにおけるコミュニティ・サービスがある。このサービスは 1965 年に連邦政府によって制定された「高齢アメリカ人法(Older Americans Act: OAA)」に基づいて助成金を受けている。地方評議会、委員会、市民グループ、その他の行政部門による合議でコミュニティ・サービスのためのプログラム運営の監督や方針が決められており、カリフォルニア州のエイジング局が各機関の調整役を担っている。

このような背景のもと、グレンドラ市は市の行政部門単独の活動だけでなく、複数の私的非営利団体と提携を結ぶことによって高齢者の社会活動を支援している。これらの公的・私的機関の協力はシニア・センターの数多くのサービスやプログラムにみられる。グレンドラ市は将来、より多くの非営利団体と提携して市民の社会参加を促していく方針である。センターの職員は高齢者だけでなく広い年齢層にわたる市民に利用できるような様々なプログラムを作成しており、高齢者が若年者との交流を通じて社会活動が行えるような場も提供している。また、月 1 回の割合で施設とプログラムを訪問者に案内しており、活動や施設が住民により身近に理解してもらえるよう努めている。

シニア・センターの活動は毎月、職員によってグレンドラ市コミュニティ・サービス局の委員会に報告されている。1997 年会計年度では、シニア・センターによる一ヶ月の高齢者の社会援助は平均 100 人、電話による相談は平均 700 回にわたる。また年間の昼食支給量は 12,913 食あったのに加え、特別なイベントは 13 回、それに 95 のクラスと日帰り旅行を含む 73 の旅行が提供された。また 22 にわたるグループの定期的活動がサポートされている。以下、シニア・センターとセンターで提供されるサービスとプログラムについて概要を述べ、これらのなかからいくつかの活動を詳しく説明していくことにする。

4-2 ラ・フェトラ・シニア・センター

ラ・フェトラ・シニア・センター (La Fetra Senior Center) はグレンドラ市のほぼ中心部に位置し、1989年にラ・フェトラ家から寄贈された家屋をグレンドラ市が改・増築した2階建ての多目的センターである。改築部分には事務所、キッチン、読書室、映画・テレビ鑑賞室、ミーティング・ルーム、20名程の人がトランプ等を楽しめる多目的ゲームルームがあり、改築前の一般家庭の雰囲気を出来るだけ残している。増築部分には250名収容できる多目的ルーム、ランチ・プログラム(詳細については後述)用の厨房、展示ケース、談話室、ビリヤード用の部屋、クラブ活動参加者の人数に合わせてサイズを変えられる部屋、個人の相談に応じるためのオフィス等が含まれる。ラ・フェトラ・センターはバリア・フリーの概念に基づいて設計されており、エレベーターも設置されている。

ラ・フェトラ・シニア・センターはラ・フェトラ・センター・パートナーシップという慈善、非営利団体の活動拠点でもある。これはグレンドラ市に住む高齢者の生活の質を向上させることを支援するために設立された団体で、シニア・センターで催されるプログラムの運営を行っている。1人10ドルの年会費で、誰でもメンバーになることができる。また、シニア・センターで特別なイベントを催すことによって、運営費調達・寄付金活動を行っている。

ラ・フェトラ・シニア・センターではグレンドラ市の高齢者やその家族に数多くのサービスが提供されており、これらのサービスは以下の四つに大きく分けられる。レクリエーション活動：体操クラス、ダンス・クラス、脳卒中を経験した人のためのクラス、創作、絵画などの芸術や料理に関するクラス、各週に催される映画鑑賞、カード・ゲーム、ビンゴ、ビリヤード、家系図作成のクラス等。社会サービス：各種カウンセリング、ケース・マネジメント、栄養プログラム、退職・再雇用プログラム、税に関する相談、アルツハイマー病を持つ人が安全に帰宅できるためのプログラム、各種情報紹介等。職業・技能・生活設計に関する教育プログラム：55歳以上の人のための車の運転に関するコース、財産管理、長期ケア、財産に関するプラン、健康フェア、会員制医療機関情報フェア等。クラブや特別なグループによる公共サービス：家族を失ったりその他の不幸を経験した人が立ち直ることを支援するグループ、コンピュータ・クラブ、ボランティア・プログラム、散歩クラブ、55歳以上の独り身の人のためのクラブ、祖父母としての役割や責任についてのクラス、蹄鉄投げクラブ、陶器装飾クラブ、刺繍クラブ、読書クラブ等。旅行サービスには歴史的な作品や芸術作品の訪問鑑賞会のような日帰り旅行から一泊旅行、一週間程度の旅行等の様々な旅行が含まれる。

シニア・ランチ・プログラム：

ラ・フェトラ・シニア・センターでは、YWCAと食事配給会社の協力により、60歳以上の高齢者を対象に、暖かく栄養のある昼食を提供している。食事はセンターで調理されるのではなく外部から配達されたものが厨房で適温に保たれている。ランチ・プログラムの参加には予約が必要だが、1食1ドル50セントの寄付、もしくは無料で参加することができる。メニューは豊富で、重複や同じパターンが各週続かないように配慮されている。運営費の一部はロサンゼルス郡地域エイジング局によってまかなわれている。ランチ・プログラムはラ・フェトラ・センターで行われるようになってから約2年経っている。以前は他のプログラムが様々な場所で分散して行われていたこともあ

って参加者は平均 30 名程度であったが、プログラムがラ・フェトラ・センターで行われるようになってからは平均 70 名ほどに増え、金曜日は食後にビンゴ・ゲームが行われるために 100 名以上が参加するようになった。センターで働く職員はランチ・プログラムに初めて訪れる人が他の参加者と円滑に食事がとれるよう、更にはその後の社会活動への参加が気楽に行えるように、同じテーブルについている人たちを紹介するようにしている。

シニア・コンピュータ・クラブ：

シニア・コンピュータ・クラブでは、初心者から上級者に至るまで、コンピュータに興味がある高齢者が月に 2 回集まっている。集会では、コンピュータによるデモンストレーション、グループでの話し合い、ゲスト・スピーカーによる講演、特定のテーマに興味のある人たちの話し合いが行われている。またグレンドラ市立図書館に常設してある 3 台のコンピュータを利用して、実用的なプログラムを使いこなせるように少人数のクラスが週 1 回開催されている。

健康サービス：

ロサンゼルス郡の健康福祉課に所属する保健婦が、月 1 回の割合で身長・体重測定や血圧測定など 15 項目にわたる健康診断を行っている。希望者には健康に関するカウンセリングも行っている。60 歳以上の人を対象にした心臓を若く保つためのプログラムは、参加者の血圧低下に効果をあげている。

自動車の運転に関するプログラム：

55 歳以上のドライバーのために特別につくられたクラスとして AARP（全米退職者協会）が主催しているプログラムである。AARP は全米で約 3,400 万人の 50 歳以上の会員を有する非営利団体である。このプログラムではラ・フェトラ・センターに AARP のボランティアが講師として出張し、加齢に伴う身体の衰えに対応する自動車の運転方法を 2 日間にわたって教える。クラスでは参加者が交通事故を回避し、活動的なドライバーであり続けることができるよう、運転技能の向上を促している。1 クラスの受講者数は法律で 30 人以内に制限されており、参加費は 8 ドルの実費を AARP に支払う。受講終了証明によって自動車保険料が 2 割程度安くなる利点もある。

ケアギバー・プロジェクト：

身障者や罹患者、また高齢者の介護者を登録し、彼らをサポート・グループによって支援することを目的とする。

セーフ・リターン・アシスタント・プログラム：

アルツハイマー病で徘徊する人の安全を確保するために全米規模で行われている 24 時間支援プログラムである。アルツハイマー協会に登録（40 ドル）することにより、登録者が徘徊によって行方不明になっても発見され次第、迅速かつ安全に自宅に戻れるようにするシステムが利用できる。

情報提供・紹介サービス：

ロサンゼルス郡の地域エイジング局は、39 の情報提供・紹介サービス局を設けており、ラ・フェトラ・シニア・センターは高齢者に関わる情報提供・紹介サービスの基点となっている。このサービスではグレンドラ市の高齢者に関わる数千の関連機関、団体、プログラム等の情報をコンピュータ・システムを通じて無料で入手することができる。レクリエーション、ヘルス・ケア、住居、公的生活補助金、法的アドバイス等に関する問い合わせや相談の電話が多い。

病院のサービスに関連した活動：

グレンドラ市には2つの病院があり、いずれもラ・フェトラ・シニア・センターと提携を結んでいる。税金控除等の特典を持つ非営利団体になる代わりに病院職員をラ・フェトラ・シニア・センターに週20時間派遣し、健康に関するプログラムを支援している。病院が提供するシニア・ケア・ネットワークは社会援助が必要な高齢者を対象に、ラ・フェトラ・シニア・センターでサービスを行っている。サービスには、賃貸の安いアパートや家屋の紹介、家屋の改修工事、消費者問題、法律問題、税金に関する相談、社会保障、公的医療保険、健康に関する相談、食事宅配サービス、在宅雑用サービス、電話による安全確認、家庭訪問、ケース・マネージメント、社会支援サービス等が含まれる。

グレンドラ・ミニバス：

グレンドラ・ミニバス・サービスはグレンドラ市に住む60歳以上の人もしくは身障者を対象にしたドア・ツー・ドアの送迎サービスである。バスには車椅子2台を含めて12名が一度に乗車できる。ミニバスによるサービスは自宅とシニア・センター間の他にも様々な場所への移動を可能にする。予約制になっており、利用の際には片道25セントの費用を自己負担する。ミニバス・サービスはグレンドラ市内に限られている。その他、65歳以上であれば市外に出るバスや電車を利用する場合は料金が半額になるため、ミニバスとこれらの交通機関を併用する利用者もいる。

4-3 シニア・センター以外での社会活動

1) 病院を通じての活動

シニア・センター以外にも病院独自で健康に関するプログラムが提供されている。50歳以上の会員約650名を対象に、健康に関する書籍や医療サービスの割引だけでなく、さらには、ゴルフ、旅行、レンタカー・サービスのようなレジャー関連に至るまでの利用割引を特典として与えている病院がある。

2) 宗教団体を通じての活動

グレンドラ市には40以上の宗教団体がある。施設では礼拝後に参加者が集まって話をする機会を設けているところが多く、高齢者には近くに住む親族や多くの家族との社交の場となる。グレンドラ市近郊の宗教団体に通う高齢者もいる。女性の集会、高齢者の集会等が毎週あり、バイブル・スタディー以外にも、一緒に食事をしたり、カード・ゲーム、ダンス、コンサート、美術鑑賞を楽しんだりしている。

3) コミュニティー・カレッジ

コミュニティー・カレッジは2年制の短大卒業資格もしくは4年制の大学に編入するための準備機関として学ぶ学生が多いが、中高齢者にとっても生涯教育の場となっている。アメリカでは連邦政府エイジング局が、コミュニティー・カレッジを地域に住む高齢者の生涯学習の場とすべく、1970年から助成を行っている。グレンドラ市にあるコミュニティー・カレッジでは生涯教育の概念をもとにしたプログラムが別枠で設けられており、カリフォルニア州から1クラスにつき1,800ドルの助成金を受けている。別枠のプログラムにはビジネス、不動産、投資、演劇、芸術、創作等のクラ

スが含まれ、平均すると毎学期3,500名から4,000名の生徒が登録しているが、高齢者はそのうちの約半数を占める。フィットネスのクラスは無料で開かれるようになってから約800名近くの高齢者が登録するようになった。生涯教育プログラムはコミュニティー・カレッジだけでなく、地域の病院、リハビリテーション・センターやナーシング・ホーム等でも行われており、そこでの参加者の90%以上は高齢者で占められる。

4-4 ボランティア活動

高齢者によるボランティア活動は、至る所でみられる。グレンドラ市以外にもボランティアの母体となる団体は多くあり、グレンドラ市に住む高齢者は市内の活動だけにとどまらず、サン・ガブリエル地域全域にわたって活動している。

グレンドラ市の高齢者によるボランティア活動の一つにラ・フェトラ・シニア・センターを通じたボランティア・プログラムがある。現在、約100名の高齢者が登録している。ボランティアになるためには、申込書をシニア・センターに提出し、適切な仕事に就くことができるように技能や仕事の好みに関しての面接を受ける。ボランティアの例を挙げると、ランチ・プログラムではスタッフの指導のもとに10名ほどの高齢者ボランティアが1時間半程分担して受付と配給を行っている。またランチプログラムの会場では新聞広告等に添付されている食料品や日用品等のクーポン券がボランティアによって集められて小箱に入れられており、誰でも使用できる。グレンドラ市立図書館には約30名の高齢者のボランティアが送られており、1人2〜4時間程度で週1回書籍部門、案内所、事務所で働いている。グレンドラ市はこれらのボランティアを行った人々に対して感謝の意を示すために、年に1度ディナーを催し、市長以下、関係者が参加した席でボランティアにギフトが贈られる。

病院における高齢者のボランティア活動内容は多岐にわたる。ボランティアは受付・案内、電話業務、回復室、事務、保育室、ギフト・ショップ、売店等、様々な場所で働いている。グレンドラ市にある2つの病院のボランティア活動を合わせると100名以上の高齢者が登録しており、活動日数には個人差があるが、1日2〜6時間程度働いている。一般に1日4時間以上ボランティアをする人には、病院側から昼食が支給される。これらの高齢者のボランティア活動は、月平均でおよそ1,000時間から1,300時間近くにも達する。

宗教団体における高齢者のボランティア活動も多く、内容も様々であり、施設維持、ミーティングの準備、事務、食事会の手伝い等を行っている。ボランティアをする時間は個人差が大きい、かなりの人数の高齢者がボランティア活動を行っている。施設外においてもグループ単位でボランティア活動が行われている。

グレンドラ市のみに留まらず、サン・ガブリエル地域にわたってボランティア活動を行う団体は多く、その一つに連邦政府の援助を受けたRetired & Senior Volunteer Program (RSVP)というものがある。55歳以上であればこのプログラムに参加することができる。グレンドラ市にはRSVPのオフィスはなく、市外にあるオフィスに登録しているボランティアがグレンドラ市で活動を行うかたちになる。ボランティア活動を行う人によって働く時間はまちまちであるが、平均して1人年間260時間働いている。サン・ガブリエル地域にはボランティア団体が多く存在し、活動内容は重複が多くみられるが、一般に学校の授業補助、成人向けの英語指導のほか、デイ・ケア・セン

ター、病院や医療機関、警察署、ナーシング・ホーム、その他のコミュニティー・サービス・プログラム等で働いている。

4-5 再雇用

ロサンゼルス郡では、55歳以上の低所得者で再雇用を希望する人を対象にコミュニティー・サービスに関連した雇用プログラムを提供している。このプログラムの参加者は技能や職種の好みに関する面接を受け、健康診断、仕事に関するカウンセリング、交通費の支給、訓練中の収入等の特典を受ける。また、ロサンゼルス郡産業協議会によって運営支援されている「LAワークス」では、サン・ガブリエル地域での就職を求める人の年齢に関わらず、ほとんど無料で仕事の訓練を施している。訓練は職種によって異なるが、連邦政府からも助成金を受けていることもあり、1人当たり平均4千ドルのプログラム料が充てられている。アメリカでは、連邦政府の法律によって年齢による就職差別を禁止しており、高齢者が再雇用される機会が損なわれないよう支援している。

4-6 介護施設における活動

介護施設においての高齢者の活動は施設内だけにとどまる傾向があるが、介護施設では様々なアクティビティー・プログラムが実施されている。それらはリハビリテーションから創作活動に至るまで広い範囲に及ぶ。グレンドラ市には施設の高齢者が身内や知人だけでなく、外部とも社会交流がもてるよう、子供達が年に2回ほどナーシング・ホームに訪れて施設入居者と交流を持つプログラムがある。このプログラムでは子供達が高齢者と一緒に創作活動をしたり、本を読むといったお互いに有益、かつ世代間の理解や交流がはかられている。

4-7 高齢者のための情報

電話による問い合わせは勿論のこと、高齢者のための活動や情報源としてグレンドラ市コミュニティー・サービス部門による出版物があり、それ以外にもいくつかの情報誌がある。

広報グレンドラは年3回、グレンドラ市の各世帯に郵送されており、高齢者のための活動や情報が掲載されている。

シニア・タイムスにはラ・フェトラ・シニア・センターで催されるスケジュール以外にも健康や日常生活に関する情報が他紙から引用されている。これは現在、希望する700余りの高齢者のいる世帯に郵送されているほか、シニア・センター、市役所、市民図書館で入手することができる。また、グレンドラ市で催される全てのプログラムやイベントが季節ごとにまとめられた情報誌もある。その他、イベントや各種相談の情報は個別にパンフレットが作成されているものもあり、シニア・センターで自由に入手することができる。また、ケーブル・テレビの番組や地域の新聞からも情報を得ることが可能である。

グレンドラ市だけでなく、サン・ガブリエル地域に住む高齢者を対象にした情報誌として毎月シニア・シチズンズ・ニュースが発行されており、高齢者に関わるニュースとともに地区毎のイベントが掲載してある。また、高齢者の社会参加を促す情報が含まれているものとして、AARPが定期的に出版している会報と「モダン・マチュリティー」という雑誌がある。カリフォルニア州にはAARPのオフィスはサクラメントとロサンゼルスに2ヶ所だけでグレンドラ市にはオフィスはな

いが、グレンドラ市を含めて州内外からの様々な電話相談や情報照会に応じている。

5 まとめ

グレンドラ市における高齢者の社会活動は、シニア・センターだけにとどまらず、コミュニティー・カレッジや病院、宗教関連施設、ボランティア関連施設等を通じて様々なかたちで行われている。それらの活動は、自治体、郡・州・連邦政府機関、非営利団体によって支援され、ときには各機関・団体独自のイベントやプログラムを通じて、また各機関や団体の協力によるイベントやプログラムを通じて行われている。これらの活動は情報提供や交通手段をはじめとした数々のサービスによって支えられており、高齢者の社会活動が様々なアプローチによって促されているといえよう。またグレンドラ市における高齢者の社会活動は市内に限定されているのではなく、隣接する地域にもひろがりをもっている。